

# 清流 ニュース

発行所  
八王子市子安町 1-22-25  
清流寺  
清流ニュース編集室  
電話 (042) 646-0287 (代)  
FAX (042) 644-1164  
http://seiryuji.jp.org/

平成二十七年 度 総 祈 願  
本 年 度 教 化 誓 願 達 成  
佛 立 開 導 日 扇 聖 人 二 生 誕 二 百 年 慶 讚  
佛 立 開 花 運 動 第 三 年 度 御 奉 公 成 就 之 御 願  
晨 尊 三 十 三 回 御 諱 報 恩 御 奉 公 成 就  
役 中 後 継 者 養 成 ・ 法 灯 相 続 促 進

## 三月の御総講日

一日 十時	御修行日
七日 十時	バスデー総講 日序上人報恩祈念
十三日 十時	高祖御命日
十七日 十時	開導御命日
廿五日 十時	門祖御命日
十二日 十時	於 清流寺 高祖御逮夜
十六日 十時	開導御逮夜
廿四日 十時	門祖御逮夜
三十日 十時	於 羽村別院 歡尊御命日

### 特別行事

春季彼岸会総回向  
廿一日 十時 本寺  
廿四日 十時 羽村別院

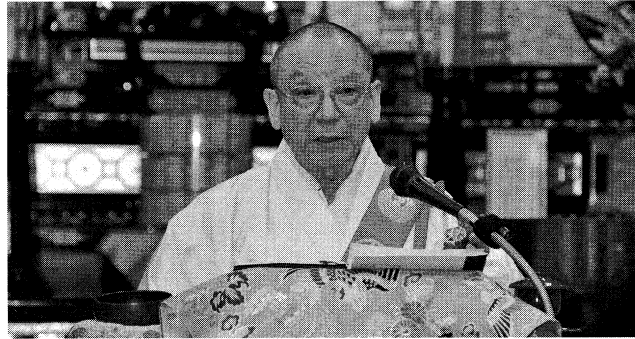
### 会議

一日 御総講後 役中会議  
日 参事会  
廿五日 御総講後 教区長会議

## 門祖日隆大聖人御開山会式

### 好天のお計らいの下

### 無事奉修さる



奉修導師 清水日清ご住職のご法門

去る二月廿二日午前十時半よりご開山会式が大和・法深寺御高職 清水日清御化主の奉修導師の御唱導いただき、好天のお計らいの下、無事に奉修させていただきました。

心配された天候も、奉修導師のお徳と随伴参詣の皆さんのご信心のおかげをいただき好天のうちに無事奉修された。

御法門では

御教歌

申置事更になし信心を

相続しやれ下種の大法



奉修御導師と随伴参詣の方々

### 朝参詣強調週間

三月二日～六日

第一連合各教区

寒参詣も済み、いよいよご弘通御奉公に拍車をかける時季になりました。二日から朝参詣強調週間がはじまりますから担当連合・教区は将引をしても連れ参詣を心掛けましょう。

三月二日(月) 元八王子教区  
三日(火) 八王子東教区  
四日(水) 八王子西教区  
五日(木) 八王子南教区  
六日(金) 八王子北教区

他連合も月初めの朝参詣に気張りましょう。

### 春季彼岸会総回向

廿一日 十時 本寺

廿四日 十時 羽村別院

春のお彼岸の時節になりました。本寺では、廿一日午前十時より法要が始まり、順次連合毎にご回向が言上されます。仏教国でも彼岸会を行うのは日本だけらしいですが、

お世話になった方や、ご先祖に感謝する意味でも彼岸会に参詣し、又お塔婆を建立して追善の功德を積みましょう。又、羽村別院は、廿四日の門祖聖人御逮夜総講に併修して執り行います。

### 乗泉寺当番参詣

四月十一日(土)

第三座 十一時三十分

奉修導師 当山住職

来る四月十一日(土)本寺乗泉寺の当番参詣です。

この度は、当山住職が奉修導師をお勤めになります。

各教区とも今から将引をさせて頂き、年に一度の本寺・親寺への参詣をさせていただきます。ましまし。

日序上人御十七回忌報恩(奉公御有志奉納者氏名その六十三) (教区順。敬称略。順不同) 二十七年二月十四日現在 合計八二〇名、一、五九八口



## 本月の御妙判

### 回向

孝養に三種あり。衣食を施すを下品とし、父母の意に違わざるを中品とし、功德を回向するを上品とす。況や亡親においておや、(十王讚歎抄) 世の中では、「孝行をし度いとときには親はなし」というような事を申します。併し、仏教では生前の親孝行もさる

ことながら、亡くなった親に對しても回向をして申らひ、我が功德を以て追善するのが親孝行の中でも、いちばんすぐれた功德があり「功德ヲ回向スルヲ上品トス」と示されるのであります。

さて生き物の在り方には四通りありまして、先ず生有こ

れは母胎に宿った刹那です。次に本有これは所謂、生涯というもので、生きて死に至るまでを申します。その次は死有と申し、臨終の一刹那の事です。

そして、中有。死後、次の生を受ける迄の間です。形体は五蘊「色、受、想、行、識」で出来ているものですが、中有のときは原質の五蘊だけがあつて形体は無いという状態で、次の生をうけたとき、どういう形になるか決まるわけです。この中有を四十九日間

として、これを中陰と申すのであります。そこで死後七日に追善し、又、次の七日に追善をし、七度、七日の追善によつて次の生を決定するといふのであります。

さて、生きている限りは、罪障を消滅せんと思えば、

罪滅の法は口唱のほかになし

怠るときはおのがあやまり

と示されているように、教

に從つて口唱に精進せば、つ

まり、自分の努力精進によつ

て成就することが出来ますが、

死んでしまつたら、修行する

ことも、功德をつむことも出来ません。あとに残つた、子供とか、兄弟とか、遺族の追善回向だけが何よりのたよりという事になるのであります。

先づ、生きている間にしっかりと御信心をさせて頂くことが大切ということでありませう。

しめる事思ふてみれば何もなし

いきている間に功德積みおけ

と御教歌下されてあります。

お祖師様は

「信心疎かにして三途に墮

して重苦を受ん時、悔ゆると

も益なかるべし。譬は網に

かゝる鳥の、高く飛ざる事を

悔るが如くなるべし」

(十王讚歎抄)

と御妙判下されてあります。

ですから、あの世で、追善回向をしてくれるのをいつても待つていてくれるのであります。

私達が生きてある限りは、お盆とか彼岸とか、又は、命日というようなとき、忘れず、無き靈の為に回向することが大切です。

とくに親の追善をおろそかにしてはならないのであります。